

浄土

monthly
JODO
1996-6



1996 6 June

法然上人鑽仰会・発行



咲いたら、幸せ。

楽しい、嬉しい。

ちょっと切ない、なつかしい。

いろんな話をしたり、聞いたり。

そんな何気ないことが、人と人との
固い絆の第一歩。

それぞれの人の、それぞれのお話に

花を咲かせるお手伝い。

安い市外電話の、0088です。

日本を楽しくする電話

0088

お問い合わせ・お申し込みは、日本テレコムお客様センターまでお気軽に。



0088-82 (無料)

または 0120-0088-82

●受付時間 9:00～23:00 (年中無休)

連載
名刹を訪ねる

迎冬山貞松院

撮影 小堀祐二

有無無碍
徳本上人

貞松院に鎮る、徳本上人の大字名号。

三河の本多家から家康の政略結婚により諏訪頼水公に嫁いだ貞松院が両親に持たされた犬張子と紙入。寺号ともなった貞松院の墓は当時では相当大きな墓だった。



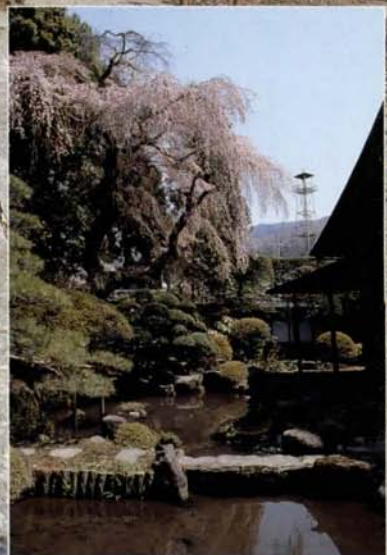
山門は昔は四脚門だったという。門と本堂が向き合う珍しい配置になっている。



迎冬山
貞松院



信長、秀吉、家康に珍重されたといわれる名笛、一節切（銘・乃可勢）は貞松院の寺宝。松平忠輝が家康から形見としてもらった縦笛。



庭には見事な枝垂れ桜が。

山門わきに廟の案内碑が建つ松平忠輝は諏訪高島城で亡くなったあとこの真松院に葬られた。忠輝公直筆の面賛軸、天海僧正から忠輝公への書状が今も残されている。忠輝公の法名は寂林院殿心養輝窓月仙大居士で、その墓は史蹟となっている。

迎冬山 貞松院

諏訪湖畔の高島城の別名は「諏訪の浮城」。貞松院は高島藩の武士にも頻繁に利用され、部屋は一間もある廊下があり、奇襲されてもやりが届かない間取となっている。また武者隠れや地下への抜け道もある。



——本文12ページにつづく。

テレビの撮影場所にもなった塀。隣の寺の手伝いに向かう貞松院の山田和雄住職。



浄土



1996/6月号 目次

カラーグラビア 連載<名刹を訪ねて>	写真=小堀祐二	3
わが身は凡夫なりと信ず	松島定宣	8
表紙は語る 野草・花ごよみ	石井敏之	13
選択の心を学ぶ	ジョアキン・モンテイロ	14
名刹 貞松院	真山 剛	20
御法語に聴く		28
You are my friend	武田恵子	32
コラム		41
日本という外国	シャウマン・ヴェルナー	42
コラム		51
漱石の「こころ」を読む	今西順吉	52
コラム		60
J フォーラム		61
事務局便り		68
編集後記		70

表紙題字=浄土門主 中村康隆猥下
表紙撮影=石井敏之
アートディレクション=近藤十四郎

松島定宣

法然上人讃仰

わが身は
凡夫なりと信ず

○われ今浄土宗を立つる意趣は、凡夫の往生を示さんためなり。（浄土立宗の御詞）
○世すでに末法なり。人皆悪人なり。（念仏往生要義抄）

今の世この時に、真に灯明となる教えは、

法然上人の開示して下さった浄土念仏の教えである、かく信する者の一人として、法然上人讃仰の縁があたえられたことは、無上の悦びであります。卒直に所信を述べ、愈々法然上人を信じ共に念仏していきたいと思ひます。

（二）何故念仏の声がたかくならぬのか
「智者の振舞をせずして只一向に念仏すべし」との、法然上人の御一生をこめての御遺訓をいただきながら、なかなか口称の一行の生活にならぬのは、み教えが本当には信受されてないからではないか、また法然上人がまったく仰せられなかったような念仏義が説

かれ、横行しているからではないのか、と憂えられています。

何故？ どうして？ 一つは、かつては阿

弥陀さまの化身とまで仰がれていた法然上人をいまは鑽仰する心がうすくなり、むしろ法然上人を越えるかの如き智者のふるまいによって、念仏を受けとっている、思いあがり広がっているのではないか。

いま一つは、私どもに凡夫の自覚がなくなり、または弱い為ではないか、と思われてなりません。

法然上人は一切の仏教を深く学び、行じる中で、実に徹底した「皆凡夫の身である」との信に立って、阿弥陀仏の本願の念仏、口称の一行こそが凡夫の生きる唯一の灯明であり、救いであると、生涯かけて説きすすめて下さいました。

この凡夫たることを自覚せず、ここから外れて念仏を受けとり、説いたりすると、思いあがりの、背師自立の勝手な念仏になり下り、

自他共に信じきれない、ために念仏が一考に称えられないのではないか、と思われまます。

(二) 法然上人の立宗

世の人々から智慧第一、戒徳ならぶ者なしと鑽仰され、弥陀の化身とまで思慕された法然上人でした。しかし御自身は、比叡の山にて実に三十年の長きにわたって「諸の教法を信じ、諸の行業を修し」て、必死の思いで救いの道を求められたのでした。その並々ならぬ御苦勞の中で、わが身は尊き聖者の道にてはすぐわれぬ身である、と思いいたられました。そして「わが身は貪欲、嗔り、愚癡などの煩惱を一つ残らず身にもつていて、その為に常に罪惡にまみれ迷い苦しんでいる凡夫である」との徹底した自覚に立たれ、この凡夫こそが必ず救われる教として選択本願の念仏のみ教えを自証なされ、釈尊出世の本懷として開示されたのでした。

多くの聖道諸宗の他に、あえて新しく浄土

宗を別立なされたのは何故か。尊いけれども難行なるが故に聖道諸宗の教えには見放され、諸仏の救いからも漏れて、濁世の闇に迷い苦しんでいる多くの人々の救いのためでありました。

信じて口に称える、この口称念仏の易行ひとつで、生きる力と悦びが与えられ、この念仏の道をゆけば、必らず光明の世界に往生できるとの希望を与えて、共に往生せんと切なる慈愛の思いからでありました。

最晩年のいわれなき流罪の苦しみも怨みとせず、念仏の教えを誹謗し危難を加える者をも「互いに順逆の縁虚^{むな}しからずして一仏浄土の友たらん」と願われたのでした。思うだけに感涙を禁じえないことであります。

このように私たちと同じ凡愚の身となして、慈愛をこめて「共に往生せん」と手引きをして下さる法然上人の教えに遇いえたことを、この上なき幸せと悦ばずにはおれません。私たちは凡夫であります。それを思い知らぬほ

どの真の凡愚の身であります。只々このよき師に随順して、み教えのままに念仏相續して往生してこそ、この人の世に生れ出た悦びがあり、甲斐があるといえましょう。

何故そのような悦びに生きられないのか。ひとえに、この身は凡夫なりとの自覚がなく、思いあがつて智者のふるまいをして生き、法然上人の生命と慈悲のこもった教えを軽く受けとっているのではないのでしょうか。

(三) 法然上人の「凡夫」とは

法然上人は、みずから「わが身は貪瞋等の煩惱をひとつ残らずそなえている身であり、罪惡にして迷い苦しむ凡夫なりと深く信ず」と言い、私どもにも「先ずこの事を信ずべし」とみ教のいたるところで説いていられます。このところをしっかり信じ受けとらないと大悲の本願を仰信して往生を願う心も起きず、念仏も申せません。

法然上人の仰せられている「凡夫」とは、

聖者に対する平凡普通の人という意ではなく、一切衆生のことです。智者愚者・貴賤・男女・老少の別なく、すべて煩惱をもっているもの、のことであります。又罪惡生死の身とは、すべて惡行をなすのは煩惱によつてであり、この煩惱が消滅しない限り常に惡を爲し、又罪を犯すおそれがあり、迷ひ苦しむ身であります。この身に影がさうているように、終生この身をはなれず、取ろうと思つても取れないのが煩惱であると教えられています。聖者とは、この煩惱、自我の執われを消滅された方で、私たちの分ではありません。

よつて「口伝によらざれば往生の得分を失うなり」と仰せられているこの口伝とは、わが身が最下の罪人・煩惱具足の凡夫であること知り、この凡夫惡人にすすめ給うている教えをわが分、私への教えと頂戴していくのだ、という教えです。そうでないといふ、思ひあがつてみ教えを受けとりそこねて、往生という得分を失うぞ、と誡めていられる懇切な教えて

あります。

法然上人を心より讃仰し、このところをみ仏の教えの如く信受して、わが思ひ上りの心を払拭しましょう。わが身は煩惱具足、罪惡の凡夫と信じ、み教えのままに、只一向に念佛しましょう、共々にと切に思います。

(四) 法然上人の教えは、今の世界人類の灯明である。

今の我等は、八百年前の人間とは違ふ、知識も學問もなく、社会も未發達の古い時代中世とはちがひ、人も世の中も大いに進歩發展している、念仏の教えなど時代遅れだ、人も耳を傾けない、と思つている者も決して少なくはないかもしれせん。

しかし果して、時代は良くなつてゐるか、人は善くなつてゐるのか、少しふかく考える力のある人なら「世はすでに末法なり、人皆惡人なり」とのお言葉が、身にしみてわかると思ひます。

この「浄土」の三月号に増上寺の藤堂御法主も説いて下さっているように、空気、水そして大地まで、汚染されつづけています。昔にはなかったことです。

わが身を凡夫などと露思ったこともなく、理性ある人間の特権と思いつて、人間の科学的知識、合理的計算などを駆使して人間のみの便利、利得、発展、開発の名のもとに自然の恵み、環境は年々に破壊され、汚染され、他の生物が次々と死滅しつつあること、そして遂には人間も生き難くなり、地球も破滅に至る恐れさえ感じられてきています。原因は智慧ありと自認する人間がしていることです。人間の智能の発達で出来ぬ事は何ひとつない、と思っている者も少くありません。古来今ほとんど人間の思いあがった悪世はないかもしれせん。

家庭や社会、日々の政財界、官界等、トッブクラスの知識ある方々、いやいじめ等の子供の世界にまで、おどましい汚濁の事件が

次々と出ています。人間は昔の人と比べて立派になつてゐる等とは、とても言えません。より悪人（煩惱具足）になつてゐるような思いがします。勿論他人ごとではない、自身であります。

今の世この時こそ、法然上人の「凡夫往生」の教えを、しっかりとわが身に頂いて、己が思い上りの信心を正し、生活を改めてととのえすむべき時ではないでしょうか。

私こそ凡夫なり、一切衆生凡夫なりと信じ、故に大悲本願を仰ぎ信じて念仏の中に生きる時、阿弥陀仏の摂護念の導きを蒙つて、わが身も世の中も、破滅をまぬがれ、ととのえられて参ります。

法然上人の教えを灯明とし「共に皆凡夫」の自覚を全世界に拡げて、力を合せて世界人類の危機に対応してゆく、そんな活動の出現が期待されます。

（まつしまじょうせん
布教師養成講座講師・常在指導員）

表紙は語る

野草花ごよみ

6月

・
スイカズラ

(スイカズラ科)

野にはえる木性のつる草。花は写真のとおり2つ並んで咲き、最初は白く、後に黄色くなるので、金銀花の別名がある。名の由来は昔子供がこの花をちぎり、蜜を吸って遊んだことによる。ちなみに英名はJAPANESE HONEY SUCKLE。

撮影場所 埼玉県浦和市



もうひと花

イナモリソウ (アカネ科)

山の林床にはえる多年生草本。高さ3~10cm。筒形の花を1~3個つける。名は牧野植物図鑑によると三重県菰野稲森山からきているそうである。いかにも山草らしい感じの植物である。

撮影場所 東京都高尾山

表紙Photo/Report

石井敏之

法然上人と私

選択の心を学ぶ

ジョアキン モンテイロ

法然上人と私との關係を問題にする場合に、まず、明確にしなければならないことが二つある。一つは、仏教との出会いが私の人生の中心の出来事であつて、その出会いにおいては法然上人からの影響が一番決定的なものであつたということであり、もう一つは、この出会いは若い頃からの私の人生の問いから切り離すことの出来ないものだということである。私の人生の問いとしては、また二つのことが挙げられる。一つは生死の苦悩に対する問いであり、もう一つは、社会の諸問題に対する問いである。

生死の苦悩に対する問いは、私の父親の病氣（私の十二、三歳の時）及び死（私の十七歳の時）から出発したものである。父親の死を縁にして無明・煩惱の存在として流転している私が初めて問題になった。そのように自分で応えられない問いが自分の上で起きたことによつて、自分以外の、自分の外の何かに聞くという必然性が、私の人生において初め

て成立したのである。

社会の諸問題に対する問いというのは、一九六四年から始まつたブラジルの軍政との關係によつて成立したものである。軍政がもたらしてきた極端な差別や支配關係を目の前にして、社会の現実に対して深い疑念を持つようになつた。この二つの問いは、もちろん、無關係のものではない。なぜなら、人間が生きている現実の厳しさを自覺して、その現実の苦悩を克服する歩みを前提としているところで本質的な共通点があるように考えられるからである。無明・煩惱の存在として流転している私のあり方、そして現実社会における支配や差別關係が、仏教でいう「三惡道」の全体を意味しているものであるように考えられるのである。

法然上人の教えと私との關係は、早くから始まつたわけではない。法然上人の教えに触れるまでも、仏教を求める長い歩みはあつた。その出会いの主な契機としては、二人の

先生から受けた影響が、決定的なものであった。

一人は、信楽峻麿先生であつた。私が一九八五—一九八七年にかけて京都の大谷専修学院の学生であつた頃、龍谷大学に信楽先生の話をよく聞きに行った。信楽先生は、称名念仏と信心とを切り離して、称名を單なる「感謝の行」として矮小化する従来の真宗理解に對して非常に批判的であり、どちらかというとか称名念仏の実践性を非常に強調しておられた。その中で、念仏と信心を二元的に見る考え方ではなく、「二種深信」とは称名の内容なのであつて、称名は信心の智慧の具体的な実践であるという了解に立脚しておられた。この念仏觀は、法然と親鸞との相異点よりも、その共通点を強調するものと考えられる。大谷派のいわゆる「近代教学」の影響を強く受けていた当時の私にはほとんど了解不可能な主張であつたが、心に残る主張であつた。けれども、最近の五年間、法然の思想を研究

し、そして法然と親鸞との關係を考え直すようになってみて、この主張の正しさを全面的に認めざるをえなくなつた。その意味では、信楽先生によつて、法然における念仏の実践性ということを初めて教えていただいたという気がする。

もう一人は、袴谷憲昭先生である。私が袴谷先生と初めて出会つたのは、一九八九年であつた。その頃から先生のいわゆる「本覚思想批判」及び「仏教における『信』と『慧』の關係」について学び、仏教の思想的立場について自分の立場が明確になつてきた。「信」と「慧」との關係を学ぶことによつて、正しい仏教とは何か、私にとって明確になつてきたと共に、従来の仏教学の本覚思想的、自然主義的な考え方から完全に解放されたのである。袴谷先生の影響は、私にとって一番決定的な思想的影響であるということは間違いない。袴谷先生は、また、『道元と仏教』という本の中で法然と明恵との思想的対立について

論じ、法然における「選択思想」こそ仏教の

正しい立場であると主張しておられた。つまり

り、仏教における智慧の正しいあり方とは、

正邪・真偽を明確に分別―判断すること、を意

味するものであり、「選択」と全く同質のもの

であるということを主張しておられたのである。

私は、袴谷先生のこの指摘を受けて善導

の研究、及び法然と善導の関係を考え直すところ

まで進み、浄土教こそ仏教の正当なあり

方であると確信するようになった。私が袴谷

先生から学んだのは、法然における「選択」

及び信心の智慧の意味であったと考えている。

この二点について教えていただいたことに深く

感謝している。

結論的にいえば、信樂先生は称名念仏の実

践性を強調し、袴谷先生は「信心の智慧」を

重んじておられたが、私が二人の先生から学

んだことは、法然の中心思想である「選択」

なのであった。

「選択」思想について法然は『選択集』の中

で次のように述べている。

此の中に選択とは即ち是れ取捨の義なり。⁽²⁾

ここで問題になっている「選択」とは選び

取る、選び捨てることを意味している。つま

り、真なるものを選び取り、偽なるものを選

び捨てることを意味するのである。法然のこ

の「選択思想」には、また、二つの次元があ

る。一つは、行の次元の選択（就行立信）で

あり、諸行を選び捨てて称名念仏を選び取る

ということである。そしてもう一つは、思想

の次元の選択（就人立信）であり、仏性・如

来蔵を選び捨てて、「二種深信」を選び取るこ

うことである。

法然が『選択集』の中で就行立信を中心に

選択を展開していることは事実だが、『三心

義』の中で「就人立信」について次のように

述べている。

人につき（就）て信をたつ（立）といふ（二）は、出離生死のみちお（道多）は（多）しとい（二云）へども、大きにわか（分ちて二あり。一には聖道門、二には浄土門なり（也）³。

就人立信の意味は思想的な次元の選択である。つまり、聖道門を選び捨てて、浄土門を選び取るということである。そして、選ばれた聖道門の内容について法然は、また、次のように述べている。

有時上人、予に語ての給はく、法相三論天台華嚴真言佛心の諸大乘の宗、遍学し悉明るに入門は異なりといへども、皆佛性の一理を悟顯ことを明す、所詮は一致なり。⁴

つまり、否定の対象になっている聖道門の内容は、「仏性・如来藏」であるということである。

ある。「二種深信」ということは、阿弥陀仏の四十八願との出会いにあって自分を「凡夫」として認識し、現実社会を「三惡道」として認識することを意味している。その意味では、人間に内在している悟りを認め、「三惡道」のままでの救いを説いている仏性・如来藏思想と明らかに対立するものである。

私の立場から言えば、現実をそのまま受け入れることを仏教の智慧であったかのようにして説いている仏性・如来藏思想（または、「本覚思想」）は、日本の仏教の最悪の伝統と言える。人間の苦悩を「苦悩」として自覚できないで、「三惡道」なる現実社会をそのまま肯定してしまうのは、日本仏教の最も悪しき側面である。

「三惡道」を選び捨て、「三惡道なき国土」を選び取ることと内容としている法然の選択思想は、日本仏教のこうした伝統に対する最も徹底した批判であると、私は考えている。そして、この主張の証拠として法然は、同じ「選

択集』の中で次のように述べている。

夫れ四十八願に約して、一往各々選択撰
取の義を論ぜば、第一に無三惡趣の願と
は、覩見するところの二百一十億の土の
中に於て、或いは三惡趣有るの国土有り、
或いは三惡趣無きの国土有り。即ち其の
三惡道有る施惡の国土を選捨して、其の
三惡道無き善妙の国土を選取るが故に
選択というなり。

自分の無明・煩惱及び、人間社会における
差別や支配関係を選び捨て、三惡道なき国土
を選取し続けることが、私にとっての選択思
想の意味であり、法然との出会いから学んだ
ことのすべてなのである。私は今後、この道
を歩みし続ける決意をしている。

註

(1) 持谷憲昭『道元と仏教』参照

(2) 『法然上人全集』一三八頁

(3) 同、一四五頁

(4) 同、一七三頁

(5) 同、一三八頁

ジョアキン モンテイロ

・一九五五年—ブラジル—リオデジャネイ
ロ市生まれ。

・一九八三年・SANTA URSULA
大学心理学部卒業。

・一九八五年・来日

・現在、浄土真宗本願寺派僧侶・駒沢大学
大学院生。

連載

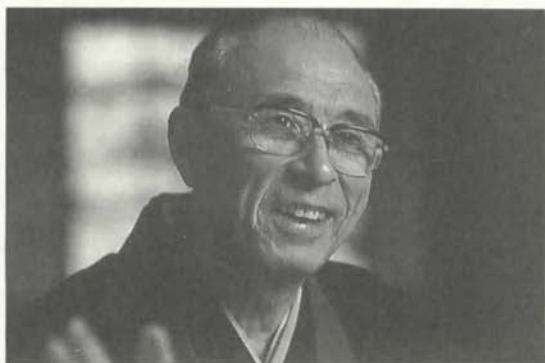
名刹を訪ねる

真山 剛

迎冬山貞松院

東無流院傳





横須賀のお寺に生まれた山田住職は五十六歳の頃から父とお勤めに出たという。ここに来たのは昭和二十九年、二十九歳の時。

「なんでも鑑定団」というテレビ番組を見た。代々伝わる宝物にどのくらい価値があるか、ということを経定の専門家たちが金額で表すという番組で、人気を集めている。他人の宝物に大いに興味を示すのは、隣の芝生の青さがとても気になるのと同じことか。

価値だけを価値とすると、それこそ千円のテレフォンカードが何万円もする時代だから、古さは関係なしに稀少価値のあるものや人気があるものは、高値をつける人さえいれば宝物になるのだろうか、こと由緒確かな年代物となると別ものだ。

単に古いだけでは決められない価値があるからだ。

今回訪れた寺院は長野県諏訪の貞松院。浄土宗のお寺には徳川家との関係のあさからぬお寺が多いが、この貞松院も徳川家との関係が深い。迎冬山貞松院月仙寺というのが正式名称だが、貞松院と月仙寺はともにこのお寺にお墓がある徳川家ゆかりの法名に関係がある。

貞松院は徳川家康による政略結婚で嫁いだ頼水公夫人（本多氏）

の法名、貞松院殿興譽英隆大姉からとったもの。月仙寺は家康の六男、松平忠輝の法名、寂林院殿心譽輝窓月仙大居士に関係がある。

そしてこの二人にまつわる宝物をはじめ、この貞松院にはいくつもある寺宝が残されている。二度の類焼と廃仏毀釈をくぐりぬけ今に伝わる寺宝は『貞松院図録』という一冊の本に収まっているが、この寺宝が貞松院の歴史そのものである。

文禄二年（一五九三年）無哲上人が開山した頃は慈雲院と称していたのだが、高島藩の初代頼水公夫人の没後、その名称を貞松院と改めた。理由は二代藩主忠恒公が、母公の恩徳に報いるため、母公の遺志により、その廟所をこの寺に建立、母公を中興開基と定められたことによる。墓は当時としては相当おおきな石室の構えて、今も県下一の大きい墓で、栄枯の跡を物語るかのように、ひっそりと苔むしながら本堂裏にそのままの姿を残している。

高島藩は三万石の小藩だが、その封地には、甲州街道と中仙道との合流点下諏訪の宿もあり、国の要所にあたる。またその居城は、現在は諏訪湖畔から数百メートル離れてしまったが、当時は諏訪湖に浮いていた高島と呼ばれる島を利用して立てられた城で、諏訪の浮き城高島城とよばれた名城である。

この地に家康のお声がかかりて嫁いだ貞松院殿だが、雪こそ少ないものの厳しい寒さの諏訪へ娘をやる両親の心は、およそ察しがつく。今も残る薙刀、膳具、行器、そして天児、犬張子、紙入、重箱、火鉢など、どれをとつても子を思ふ親の気持ちがかもったものばかりである。とくに子供の厄除けのためといわれる天児や犬張子は晩年の貞松院殿が、遠いお里、三河の本多家を懐かしみ、両親を思いしのぶすがとして大切にされたに違いない。

この貞松院殿が家康の政略で諏訪に來たように、松平忠輝も当時



唐沢の阿弥陀寺の左手後方には弾誓上人が籠もった岩窟があり、また寺へ向かう途中には貞松院蔵の徳本上人のお名号が岩に彫られている。

唐沢 阿弥陀寺

・ 貞松院から車で約十分。急な坂道を歩いて登ると唐沢山の阿弥陀寺がある。回りを断崖絶壁で囲まれたこのお寺も、前号このページで紹介した箱根の塔の沢の阿弥陀寺同様、弾誓上人が開いた念仏道場だ。弾誓上人が籠もったという岩窟は絶壁にある。

この阿弥陀寺の本堂は数年前に火事で焼失。現在、長野の善光寺の大本願の本堂を移築している最中だ。貞松院の山田住職は現在この阿弥陀寺復興委員会の副委員長（委員長は正光寺藤森源信住職）を務めている。全国から勧募し、秋には本堂が完成する予定だという。諏訪湖を望むこの道場に再び多くの修業者が集うことを山田住職は願って止まない。

の江戸幕府の基礎固めの犠牲者の一人で、母は茶阿の方といい家康の六男である。文武両道に優れた忠輝だが、伊達政宗の娘を妻にしたこと、大坂夏の陣の意戦など表面的な理由もあるが、例えばキリシタン問題などのごとく、当時急速に進展した国際問題などが内面の理由で、幕藩体制確立を急ぐ幕政の犠牲となつて家康からは勘当、兄秀忠からは改易処分を受け、伊勢へ配流、その後飛驒に流され、最後にこの諏訪に流されるという運命をたどった。政権安定のための止むを得ず勘当したものの家康の忠輝への肉親の情は深く、家康は口には出せない親の心を一管の笛に託し、生前の形見としてひそかに忠輝に与えている。これが貞松院の寺宝中の寺宝となつてい

寺玉の数々を収める「貞松院図録」。



銘を乃可勢（のかせ）と称する一節切（ひとよぎり）の名笛である。この縦笛は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康という三人の天下人が珍重した笛といわれ、黒漆塗で、縮緬地に椿、かきつばた、松などの花模様、の襷に包まれ、萌黄金襴三葵文蜀江の袋に入り、葵の大紋と織田信長自愛乃可勢、御笛と書かれた黒漆塗の箱に収められている。

この笛を見せてもらったが、その竹の肉の厚さといい見事な節ぶりといい、素人眼にも風格を感じるし、信長、秀吉、家康と聞いてしまつては、もう何をか況んや、である。こんな笛を鑑定団に出したら、などと良からぬ思いはすぐ消えたものの、しばらく見とれてしまい、三人の天下人が恐らく数多くの殺戮の罪の深さをこの笛の音で紛らせていたのか、などと夢想してしまつた。

忠輝関係の寺玉はまだまだある。忠輝の稀な筆跡とされる画賛軸は、おそらく当時の貞松院の住職であらう老僧の横に「戸をたてて僧は入りけり 秋の暮」と詠んである。また家康の顧問的な役割を果たした天海僧正からの書状も残っている。諏訪三万石の半分の一万五千石を持って守られ高島城の南の丸に幽閉されていた忠輝だが、何とか自分の身を赦免してもらふよう天海僧正に取り成しを頼んだことがある。それに対する返事の書状である。その内容は「お母様（茶阿の方）がご存命ならまだしも……（中略）、とにかく氣長で



直しても直しても両親のいるお城（高島城）に向けてしまつという城向き地蔵は墓地の中にあり、観光名所になっている。

健康でいてください」というものだが、実はこの書状は忠輝に届く前に藩の者がにぎりつぶしたという。生涯ついにこの書状を見ずに死を迎えた忠輝の孤独な思い、察するに余りがある。

忠輝は行年九十三歳で他界し貞松院に葬られた。その墓は貞松院の史跡のひとつとしていまも多くの人のお参りがある。

こうした貞松院殿、寂林院殿関連の宝物のほかに寺伝関係、諏訪家関係の宝物と、貞松院の寺宝はまだまだ尽きない。寺伝関係の宝物では前号でも紹介した浄土宗の捨世派の徳本上人の大字名號がある。軸寸で縦六メートル八十センチ、横一メートル五十四センチというもので、上人がこの地に念仏勸化に來たときに貞松院に泊まり、この名号を境内にかけ、法を説いたといわれている。この大きな名号の軸は天下三幅のひとつで、同じ捨世派の彈誓上人が開いた唐沢の阿弥陀寺の参道の途中にこの名号が彫られている。また写本『徳本上人行狀記』も稀覯本として残っている。

住職に話を聞いてみたのだが、この貞松院の歴史を聞くうちにやはり自然と寺宝の話につながってくる。第二十五世となる山田和雄住職は氣さくこう話してくれた。

「今はどうにかこのお寺も落ち着きましたけれど、徳川から明治に変わって、更に昭和十一年にいまのこの本堂が建つまでの間は本当に大変な時代だったんです」

兄弟姉妹六人の次男坊だった住職は昭和二十九年、二十九歳で貞松院に來た。その時にはすでに今の本堂はあったのだが、住職はこの本堂建立にまつわる話を先代からよく聞かされたという。

「江戸時代に二度火災に合い、嘉永元年、今の庫裡が建っただけで、本堂は未建のまま約九十年、いま残る寺宝が入っていた土蔵を除けば、貞松院の境内は原っぱ同然。境内がテニスコートになっていたこともあります。このコートを天狗クラブという地元の特ニスクラブが使い、諏訪郡下民間テニスの發祥地になったぐらいですからね。また明治七年、勸業博覧会がここ上諏訪で開催されたのですが、その時、貞松院の境内は本堂もなく広いので、芝居小屋が建てられました。それが今日、当地方の近代演芸場の發祥地などと云われ、文化的に価値づけされていますが、皮肉なものです。当時の住職は維持のため青息吐息で苦勞のしっぱなし。何としても本堂を完成して住職は芝居小屋が別の場所に移転の時、なんと興行師に芝居小屋の材木を本堂建立のために残して欲しいか、という嘆願書まで書いたというんですからね。貧乏寺でなければ聞けない、何とも痛ましいお話ですが、想像以上に大変だったんでしょうね。考えてみれば、徳川様や高島藩と関係が深かっただけに明治維新の政変は直接響いたし、その上廃仏毀釈とさんざんだった。でも本堂をたてるために住職は東奔西走、昭和の始めに遠方檀家を回



七十歳を超える山田住職だが、阿弥陀寺への山道を下駄と杖で簡単に登ってしまう。

り、檀中の若い人たちにこの貞松院の歴史を説いたそうですよ。そうしたら、そうか和尚、知らなかったが由緒ある寺なんだと、みんな再興に力を合わせてくれた。そして建立工事中、手弁当で遠い農村から奉仕に通い続けてくれたそうです。みんなの汗と真心でできた本堂なんですよ、この本堂は。

『貞松院殿や寂林院殿が自分に力を与えてくれたんだ』ってよく先代が話してました。お寺に残った寺宝や史跡、つまり由緒が檀家の方々の心を動かしたということでしょう」

「寺宝は寺と一体のもの。寺を守る者の責任として守っていきます。先代の言葉通りこの本堂だって貞松院殿や寂林院殿が数百年の時間を越えて建立してくれたものですから、そうした人の心を動かす力を秘めている宝物はいつまでも伝えるべきものと思い」

宝物が人の心を動かして寺を守り、寺が、そして檀信徒が宝を守る。鑑定できないところに宝物の本当の価値があり、それを肌で感じる人がその宝物を次代へと伝えていく、貞松院の歴史はこう語っている。

(ルポライター)

御法語に聴く

一丈の堀を越えんと思わん人は、
一丈五尺を越えんと励むべし

勅修御伝第二十一卷「上人常に仰せられる御詞」

始めるときは、
気合いを入れて

子供のときの記憶で、確か1mぐらいの走り高跳びのときでした。

前の右足が確かにその1mを越えたと思ったのに、どうしたわけか後ろの左足のかかとが引つかかって跳べなかったことがあります。

そんなときは先生から、「もつと高く跳ばなくては跳べないよ」と言われ、次に右足が1mよりずっと高く跳んだとき、左足も楽に跳び越せたことを覚えています。

言われてしまうと、こんなことあたり前のことなのですが、このことはとても大事なことなのです。

最初の1mの高さのまま、最後までその高さを維持することは、とても大変なことなのです。そしてこのことはどんなことにも言えそうです。

しかし、法然上人の教えからすると、この言葉は他の法語と少し

違う雰囲気があります。上人の教えの特徴は、力まずに、自らの力を自覚して、肩の力を抜く教えであるように思います。教義が先にあるのではなく、その人の性格、力量がまずあって、その上に立った救いが信条の教えだと思ふのです。

しかし、先の話のように、最初の意気込みがあれば、最後は楽になるということは事実といえそうです。最初に目的意識をしっかりもって、物事を始めることが一番大事だということだといえます。そして結果に対しては『忍終不悔』の精神、後悔なんかしませんよということ、仏様にお任せしようということなのでしょう。

この言葉は続いて次のように言っています。「往生を期せん人は、決定の信をとりてあいはいはげむべきなり」

つまり往生を願う人は、しっかり定まった信じる心が一番大事で

あるということ、それは一般的には、一丈の堀を越えなければ一丈五尺を越えようと頑張ることだというほどのたとえをもって語られているのです。ということは、何事も思い立つときの最初の心構えが一番肝心だということなのです。

「決定の信」をもつことは、それだけ気合いの入った心構えをもつことだとも言えます。

目的意識、願う心、そうしたものがいかに大事かということを語っているのです。

最初から力を抜き、いいかげんになることなく、物事を始めるときは、しっかりした目的意識と、気合いが必要だと言っているのではないのでしょうか。

(文責・浄土宗総合研究所研究員・長谷川佑潤)

アメリカ

外国で
生活して
⑪

You are my friend
友だちだから **武田恵子**



ニューヨーク州のワークショップで
ジュディーはボストンから、ダイアンはコネチカットから、
フローはシラキュースからとアメリカ各地から泊まり込み
で私のバスケットの講習に集まってくれました。

「バスケットリー」。まだあまり知られていない言葉ですが、私がライフワークと決めた仕事です。平たく言うと、「箆編み」ですが、繊維を使って創り上げる立体を言います。もちろん、竹箆や藤箆もそうですが、実用品ではない、抽象的な作品も含まれますし、植物に限らずさまざまな素材が使われます。

もう一〇年前になります。その頃主人は浄土宗から奨学金をもらい、カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校の大学院に留学していました。主人の単身留学も一年が過ぎようとしていた時です。「近くでバスケットを教えているところがあるぞ。」と言う主人の知らせに、それまで藤や竹のかこを勉強して来た私は、「チャンスは今しかない!」と、小学校四年の一学期を終えた息子とともに主人の所に押しかけることにしました。主人の留学先のサンタバーバラは、気候も温暖で治安もよく、別荘地でもあり、退職した人達が多く住んでいるところでした。この町は、ベトナムからの

難民やその他の国からの移民、合法的とは限らない中南米の国からの移住者や世界各地から集まる大学関係者の家族など、さまざまな人種の人達が集まって住んでいる町です。今では日本でも盛んになりましたが、成人のための生涯教育制度が整っており、いくつものアダルト・スクールがあります。他言語の人達のための英語(米語)教室、もちろんアメリカ人のための外国語教室、陶芸、絵画、ステンドグラス、パッチワークなど、さまざまな講座が秋と春の二期に公開されます。これが一ドルの申し込みだけで、だれでも受講することができのです。こんなに手軽な講座にもかかわらず、どの先生も一生懸命で内容もとても充実しています。日本で習う何倍もの内容を一回ごとの講座で得ることができました。それに、各講座の終了時には生徒全員から内容の充実度や教え方の良否などの授業評価が行われ、次回からの講座編成や参考

納得するまで徹底的に質問をします。私は、英語、パッチワーク、そしてバスケットリーの講座に通うことにしました。

いよいよ待ちに待ったバスケットリー講座の一日目です。少し早めに行って部屋の前で待っている、生徒達は自分の作った作品やら道具やらを両手一杯にかかえてやって来ます。皆、部屋に入ってくると、お互いに顔見知りらしく、作りかけの箒やら、いろいろな材料を囲んで、おしゃべりが始まります。どうやら初めての受講者は私だけのようです。日本にいるのと違って私は外国人、解らなくて当たり前。こんな気持ち私が私を自由にしてくれました。先生はキャシー、私と同年代の女性です。片言の英語で自己紹介しながら、アメリカでの最初の先生であり、今では、もう一〇年交際の続いている親友となったキャシーに話しかけて行きました。これが今日まで続いている私の「バスケットリー・コネクション」の始まりでした。ここを出発点としてア

メリカ各地の、たくさんの友達とのつながりやバスケットリーの仕事で、「ユー・アー・マイ・フレンド」、「友達だから」の言葉で広がって行きました。

キャシーは、カリフォルニア州立大学のバークレー校を卒業して、道路工事会社の設計技師をしているご主人と結婚し、私の息子と同世代の二人の男の子がいます。彼女のアメリカン・バスケットリーと私の日本の箒編みの知識の交流や、母として同世代の女性としての共通点もあり、私たちはすぐに親友になりました。

生徒の方はいえ、半分が五〇歳以上の退職した人、あるいはその奥さん、残りが子育てを終えたか、もうそろそろ子供に手がかからなくなってきた女性で、若い女性はパット一人でした。パットは日本人と結婚して日本に住んでいたのだけれど、ご主人に捨てられて、アメリカに帰ってきたのだそうです。「日本で夫の家族になじまず、夫も浮気もの

で随分苦勞した」と、初対面の私にさりと話ししてくれました。なんだか日本人として申し訳ないような気持ちになったりもしました。その時、彼女はサンタババーラで日本人の経営する植木屋に勤めていたこともあって、バスケットの材料の植物についていろいろ教えてくれました。「今は植木屋で下働きだけれど、いずれ自分に適した仕事を見つけ成功したい。もし、バスケットリー・アーティストとして成功出来れば最高なんだけど」、アメリカで会った多くの女性がそうでした。自分自身が独立して生きる道を求め、精神的にも、金銭的にも自立してアイデンティを確立したいと、常に成功するための方法を探しています。それは、夫との結婚生活とは別の、自分自身の道です。パットも、キャシーも生活のペースは違っても、同じように一生懸命に自分の道を探しています。食欲なほどに。

彼女たちのように、「生きがいを探して、出来たら金銭的に独立できる道が見つければ

つとよいのだが・・・」と、アダルト・スクールを利用する人達のほかに、すこし違った目的で来る人たちがたくさんいます。余生を有意義に過ごすために、ともに趣味を共有できる友達を見つけるために、ここを訪れる人たちです。この国の多くの人たちが、成人した子供達がそれぞれに独立した後は、たとえ伴侶を亡くした後でも、自分の生活ペースを変えず、一人で暮らしています。アップルゲイトやナンシーもそんな人たちのひとりです。ナンシーは、身寄りといえば他州に住む妹が一人いるだけです。定年で退職するまでずっと看護婦をしていました。小柄で、ものしずかな、とても思いやりのある女性です。いつも、「こんな材料は日本には無いでしょう」とか、もって来たバスケットを褒めると、「この材料で作ってみたの。使ってみる？」と言って、苦勞して集めた材料をもって来てくれました。彼女だけでなく今まで会ったアメリカ人のほとんどがそうですが、自分の知識や力

を出し惜しみすることなく分けてくれます。自分のできることで相手のためになることから、努力を惜しみません。それは、哀れみや同情からではなく、あくまで対等の関係に立っての相互の努力です。自分の力でできることを、利害や見返りを考えずに、人に与えることができるのです。人々にボランティア精神が浸透しているようです。

ある日のことです。ナンシーがいくつかのかわいらしいバスケットを教室にもって来ました。とてもいいねいに編まれた、時間のなかった作品なので、「とてもすてき。材料は？どのくらい時間がかかったの？」と質問すると、「家にはもっと色々なバスケットがあるから、見にいらっしやい。」と言ってくれました。後ろからアップルゲイトとキャシーが「彼女の色々なコレクションは一見の価値があるからぜひ行ってごらん。」と勧めてくれました。

約束の日にナンシーの家に行くと、「散らか

っているから恥ずかしいわ。」と言いながら、家の中に案内してくれました。彼女の家は平均的なアメリカの家よりも少し小さめの家でしたが、それでも、日本の3DKと言ったところでしょうか。決して手入れの行き届いたとは言えないながら、色とりどりの花の咲いている小さな前庭を通り過ぎて家の中に入ります。

本当にすこい。

私は、家の中に一歩足を踏み入れた瞬間から圧倒されてしまいました。空いているスペースは歩くところだけです。部屋の中じゅう、椅子や箱が置いてあります。彼女の今までの人生の長さの分、家具や椅子が増えてきたのでしょう。タンスや椅子、箱の上には人形が、たくさんの人形が座っているのです。彼女のベッドにも、「大人」の人形が座っていました。一メートル位の大きな人形から、一五センチほどの小さなもので、縫いぐるみや、日本人から貰ったという藤娘もありました。



ナンシーの子供達です。

金髪のフランス人形や抱き人形が百や二百ではない数、「いる」のです。私はナンシーの心の中を見てしまったようで、しばらく言葉が出ませんでした。この部屋に招待された誰もが同じ反応だったのでしょうか。別段、気を悪くしたふうでもなく、ナンシーは言いました。「消防署からも、市役所からも、一人暮らしは危ないから、ここを引き払って老人ホームにいったらっていわれているんだけど、この

子たちを置いて行けなくなつて。キャシーは、この子たちを市に寄付すれば人形の博物館を作つて飾ってくれるって言うんだけど。」彼女は、長年にわたつて、旅行をしたときなどアンティーク・ショップをのぞき、この子供達を集めたそうで、今ではかなりの年代物もあるようです。ナンシーにとってはなにもにも代えがたい家族なのでしょう。

「他にもいろいろあるのよ。」ナンシーがタンスの前に案内してくれました。引き出しを開けると、古びた人形の頭、手、足などが、一杯詰まっていました。時々、スワップミート（青空市）に行つて、このケガをした子供達（人形）を「連れて」くるのだそうです。そして、これまた古い布地や、レースを買つて来て彼女たちを直し、新しく洋服を作つて着せるのだそうです。ほかのタンスの中には、アンティークな布地や、レースがぎっしり詰まっていました。「こんな生活だけど、友達もいるし、結構忙しくて充実しているの。ボラ

ンティアの人も時々ぞいてくれるし、体が動けなくなるまで、ここで一人、暮らして行くつもり。」決して気負った風もなく、話していました。サンタバーバラを去る少し前、キヤシーや、バスケット教室の生徒達が、長女を身ごもっている私に、サブライズ・パーティーを開いてくれました。サブライズ・パーティーとは本人には知らせずに呼んで、皆で驚かして楽しむパーティーのことです。特にこの時のパーティーは、ベビー・シャワーといって、赤ちゃんの生まれる少し前に、赤ちゃんのものをみんなでプレゼントするのです。その時、ナンシーは、五〇年以上も前のものだという人形の頭に、新しい体をつけて、プレゼントしてくれました。ナンシーにとって、最高の祝福の気持ちだったと思います。

ての成功への道づくりのために、ギルドを作っています。ギルドとは、作家が中心となっている組合で、これに加盟することで、初めて作品を発表するチャンスを得られます。こういった、ギルドを支えているのが、キャシー、パット、ナンシーのような、アダルト・スクールのようなところでバスケットリーの第一歩を歩み出した女性たちです。男女平等の精神が行き渡ったこの国ですが、キャシーやパットのような若い人たちにとって、現実には決してそうではないようです。また、百パーセント財布の紐を握っている主婦の多い日本と違って、自分自身の収入の道を持たないアメリカの専業主婦は安住のできる立場ではないようです。特に、夫から月々渡される生活費はもとより、自分のための出費までも、夫の管理下にある主婦がとて多いことを聞かされて、とても驚きました。彼女たちは、そのことに抵抗があるようです。ですから、いつも成功するチャンスを探しています。「成功

する」ということは、経済的にも精神的にも独立できるだけの収入や、社会的地位を得るということですね。そのための手段としてギルドに入って来ます。

また、ナンシーやアップルゲイトのような成功するためというよりは、自分自身を捜すために、自分の人生を豊かにするためにギルドに入る人達がいます。彼女たちは、それぞれに違った環境にいて、違った目的をもっている、同じように太らかで、ボランティア精神にあふれ、行動的です。常に自分を捜しています。

私は、ここ数年、毎年各地のギルドに呼ばれて、私のバスケットリーを教えています。

「友達だから」「ユー・アー・マイ・フレンド」。この言葉だけで、私は大勢の彼女たちバスケット・メイカーの家に泊まり、おしゃべりし、いつも決まって、「ケイコ、あなたのバスケットリーをシェアしてくれて、ありがとう。」そういって、飛行場から日本に送り出し

てくれます。私がアメリカン・バスケットリーの世界に受け入れられたきっかけも、彼女たちの大らかな心と、人種、個人、個人の生活の違いを乗り越えて、全てを公平に評価し、受け入れる心のお陰です。キャシーに連れていってもらって参加したロサンジェルスの一クシヨップで、ジュディーとシャレーンに知り合いました。ジュディーはロサンジェルス地域のリーダー的存在の人であり、私もロサンジェルス・バスケットリー・ギルドに入ることができました。入会直後に開かれた、「南カリフォルニア・ファイバーアート・ギルド大会」に出品した私の作品は第一位になりました。翌八八年度も連続一位に選ばれたのです。

シャレーンは北カリフォルニアのリーダーです。シャレーンはバスケットリーの本をたくさん出版していて、私のバスケットを彼女の何冊もの本に載せて、アメリカ中に紹介してくれました。彼女たち、アメリカの人たちの

心の広さと「フェアに、全ての人に平等に」接する気持ちを知ることができました。また、「教えてくれて」ではなく、「シェアーして」分かち合ってくれて「ありがとう。」なのです。そして、私と彼女たちは、「友達」なのです。サンタバーバラから始まった、私のバスケットリー・コネクションは一〇年たった今、カリフォルニアから、ニューヨーク、フロリダ、ヒューストン、ミシガンと伸びて行き、今年も、この原稿を書き上げると、ボストン、バーモント、フロリダ、ニューヨークに出かけます。一〇月にはミシガンの人たちが呼んでくれています。

いつもバイタリティー溢れる彼女たちの笑顔と「友達だから」の言葉に迎えられて、お互いのバスケットリーを「シェアー」するために、でかけるのです。

(東京八王子・龍泉寺内)



フロリダ州、タンパでのワーク・ショップで

地元の人が多い中で、中央の電を編んでいるリーンははるばるヒューストンから2日ガガリのドライブをして参加してくれました。私の親友になりました。私の左側の眼鏡の女性は、この地方の言葉で「スノー・バード」。冬の間だけ暖かいフロリダで過ごし、夏はカナダ近くの涼しいところで生活する、お金持ちの人達の一人です。

久しぶりに旧友と集まる機会があり、談笑をしていて今更ながらのように気づいたことがありました。それは、もの静かにいつもニコニコ笑みを浮かべていて、あまり口を開かない者もいれば、はじめから終わりまで賑やかによくしゃべる者もいるということ。注意して見ていると案外おもしろいものです。人はさまざまなんです。私はどちらかって？ それはもちろん…。

皆さんはどうでしょう。おしゃべりは好きですか？ それともあまり好きではないですか？ 私は大好きです。我を忘れてついエキサイトしてしまうこともしばしばです。おしゃべりは自分の胸のうちに考えているこ

若和尚の

十五 其 是 不 是 的 話

とを外に出すことによって、あらためて整理、確認することができますし、また、同時に相手の話を聞くことによってその人の考えを知ることができます。そんな意味もあって、おしゃべりは楽しいとも思いますし、必要なことだとも思います。

しかし先日、一冊の本を開いて思わずドキッとしました。お釈迦さまの次の言葉が目飛び込んできたからです。

無益な言葉を千回話すよりも、聞いて心の静まる有益な言葉を一つ聞くほうがすぐれている。
『法句経』

おしゃべりは楽しい。しかし自分が話している言葉、話の内容、それにはどれほどの価値があるのかを考えさせられてしま

いました。「聞いて心の静まる有益な言葉」ところか、無駄な言葉、話を口にしていていことの方が多いことに気付かないわけにはいきません。長い時間おしゃべりをしてもその後には何も残らなかった…ということも確かにあります。

楽しいことであり、有益な場合もありますが、状況や内容によっては無益な、むしろ害にさえなる危険性のあるのがおしゃべりです。

私のようなおしゃべり好きには何ともチクリと痛い教え。ですが、胸によく留めておいて、「いいおしゃべり」をするよう心掛けるべきだと、あらためて思った次第です。少しおとなしくしないと…。

(正)

日本 という 外国

大正大学助教授

シャウマン・ヴェルナー

外人?

東京駅中央線のホームで年配のご婦人に聞かれる。「八重洲北口はどちらでしょうか。」洋書をあつかう本屋がその辺にあるので、ぼくはもちろんよく知っている。「その階段を降りて右側の突き当たりです。」ご婦人はぼくが教えた方向に二、三步を歩きかけて、突然ふり向く。「外人だった! 私は外人としやべった!」驚いた顔をして、そそくさと逃げる。

ぼくの「クロス・カルチャー論」の授業で学生と「多元文化社会」のあり方を考える。「君は外国人と付き合うことある?」「ありません。」ぼくは「そうかな?」と疑わしげに言う。と、ほかの学生が笑いはじめるが、本人はどうして笑われているのかよく分からない。確かに、よく考えれば、ドイツから日本へ来て今年でちょうど二十年になるぼくの方が、

この学生たちより日本生活が長い。最近、異文化を感じるためにトルコをあつかう。日本はぼくにとってあまりにも当たり前の国となつたからだ。

「帰る」という言葉ももうほとんど使えない。「ドイツへ帰る」か「日本へ帰る」かはつきりしないと誤解をまねく。

目的論—日本への道

「なぜ日本へ来たのか」、「どうして日本に興味をもったのか」としばしば島国の人に聞かれる。父はそれまで日本にまったく関係なかったドイツの国家公務員なので、分かりやすい家系的な理由を挙げられない。「何となくこういう風になった」というのが真実だが、それでは面白くない。そこでぼくかなりの目的論を勝手に作つた。

小学校二年のころおばさんにもらった子供の百科事典ではじめて日本を知った。日本の家屋は木と紙で出来ている、と書かれていて、数奇屋造りのような、湖の中に建てられた小屋のイラストがついていた。母の洗濯機が入っていたボール紙の箱で作ったぼくの「家」によく似ているではないかとぼくは喜んだ。あまりにも珍しかったので、さっそく学校のクイズに「木と紙で家を作るのはどこの国か」という問題を出したりした。

十二歳のときに父の本棚で見つけた、ドイツ世紀末の詩人の短編集「近江百景」が描く美しい日本にもまた親しみを覚えた。デカダシ少年は、皇太子を裏切った罪をつぐなうために吉原で身売り、金箔を吸い込んで自害する女性の話を、目を見張って読んだ。

ドイツ人は皆コーヒードルだから、ぼくはお茶を飲むことに決めた。紅茶ではあったが、

ミルク、砂糖を入れない。一度中国の緑茶を見つけたが、今のようには日本茶まで買える時代ではなかった。しかしちゃんと本を読んで、日本の茶の文化を調べた。茶を中心に日本文化を西洋人のために解釈する岡倉天心の「茶の本」を、今は時々学生に日本文化論を考えさせる材料としてあつかう。

日本にあこがれる最大のきっかけは「土佐日記」だったろう。一四、五歳のころヨーロッパの日記文学を読んだ。文献目録で日本にも日記を書いた人がいたことを知った。「土佐日記」は二十年代に独訳が出版されていた。町の図書館にはなかったが、ドイツのどこにあるか調べてくれた。半年後南ドイツのある図書館から手に入る。石版画のイラストがある、愛蔵版である。読むと、独訳ではあるが紀貫之の文体に惹かれる。男性が女性に化けて日記を書くような軽いタッチに感動して、「土佐日記」を手で書き写す。

留学生になって初めて日本へ行く一週間前に、この本を古本屋で見つけた。これもなにかの縁だと思って買い求め、ばくの宝物の一つにした。

その後、同じ独訳の別の版をもう一冊手に入れた。第二次大戦直後、ドイツに住んでいたある有名な朝鮮の人が、この古い訳をもう一度、国際交流、異文化理解を願って、戦後の困難で苦しんでいるドイツ人のために出版したものである。

高校のクラス旅行はイギリスだった。当時ドイツではまだ日本の食べ物にはなかったので、

ロンドンにあった日本料理屋を楽しみにした。

オクスフォード通りの横丁に行ってみると、同じ名前の店が道の両側にあった。どうしようかと少し待っているうちに、日本人らしい人はみな右側に入る。それで決心した。

カウンターに座ると、となりのイギリス人が奥においてある鍋を示してくれる。その鍋にかけてあったタオルが激しく動く。板前さんがタオルを引つ張ると、うなぎ一匹逃げようとする。

最初に食べた日本料理は寿司だった。母がしないから魚料理は嫌いだけど、ナマ魚だけは大好きだ。

京都一千年の歴史に

育まれた巧みの技

京仏壇・佛具は当店に!!

☎六二五 京都市右京区

西京極南衣手町七四

(株)島津法衣佛具店

☎〇七五―三二四―七七六八

FAX〇七五―三一五―三七五三

こんな風にしてだんだん日本に近づいてきた。でも学校を卒業して、ドイチエ・バンク銀行に就職した。日本は夢ではあるが、まずはこの世に生きる力をつけなくてはならない。

遊学

五年間まじめな銀行員として働いた後、ボン大学で日本学に耽けることに決めた。趣味は文学であるが、副専攻として比較文学と中国学を選ぶ。(文語の授業でもちろん「土佐日記」も読む。)三年半勉強した後、日本の文部省の奨学金をもらって、早稲田で幕末から明治初期までの最後の戯作文学を研究することになった。初めて日本へ行く。

当時はまだ羽田だったので、モノレールから最初に見たコンクリートのジャングルはショックだった。数奇屋造りの建物はどこにあ

るのだろうか。

外国人留学生寮の窓から咲いている桜と走っている電車がよく見えるが、あまり気に入らない。幸いに、自分のアパートを見つけるまで、ボン大学で知り合った日本の独文学者(そのうち妻ともなるが)の家の離れに泊めてもらう。戦争の空爆を受けなかった、子供のときからあこがれた美しい木造の建物だった。純和風トイレは、谷崎潤一郎が書いたように綺麗だったが、ぼくの足はがくがくした。

世田谷区の良いところに見つかったぼくのアパートも畳の部屋と庭で、まあまあ綺麗だった。しかし、パイロットになった高校の友達(ぼくを訪ねてくると、まず聞いた。「ここはスラムか。」)ちょうど近くのある家が壊されたので、地下室がないことや、壁がドイツのちゃんとした家では考えられないほど薄いことが目立った。そして一番ひどいのは、皆が

窓の前など、人の目にふれるところに洗濯物を干すことだった。ちよつともプライドのあるドイツの主婦だったら、そんな恥ずかしいことはしない。日本の条件を知らない友達にとってこの地域がスラムにみえたのも無理はない。

勉強の邪魔だからなるべくドイツ人と会わないことにした。日本語をしゃべるのはまだ下手なので、練習のために居酒屋へ行く。「ワタシハドイツジन्दス」「ワタシハリユウガクセイデス」「ワタシハゲサクブンガクヲベシキヨウシテイマス」こういう話は長く続か

ないから、はしご酒は一つの勉強方法だ。江戸の戯作を理解するには歌舞伎町などを徹底的に調べる必要がある。と指導教授の暉峻先生もおっしゃっておられた。

夏の東京は蒸し暑いので、芭蕉の「奥の細道」を片手に旅に出た。一ヶ月ぐらい、すばらしい旅の経験をした。しかし、家へ帰ってドアを開けると、大変なことになっていた。玄関の靴から奥の押し入れの背広まで、畳も、挙げ句の果てにぼくの大事な本も、すべてがカビてしまった。ドイツではできない経験だ。あわててドアを閉めてまた出かける。温泉で

薫香
線香
經典
念珠

浄土宗総本山知恩院御用達

豊田愛山堂老舗

※地方発送受賜ります。

京都・祇園

TEL(075)551-2221番代

FAX(075)525-1806番

もなんでもいい。シヨックから立ち直つたら大掃除を始めよう。

こういう風にだんだん日本の生活になれてきて（ゴキブリとか、地震とか、いろいろあるが）、三年の留学を楽しく過ごした。

里帰り

「ここはドイツだからお辞儀しなくていい」と父の部屋に入ると言われる。ぼくはお辞儀をしたつもりはない。ただ日本ではカモイが低くて、ドアのところで頭を下げるくせが身についてしまった。

学位をとるため、再びボン大学に通う。久しぶりにドイツの電車に乗る。だれもぼくの方を見てくれない。ぼくだよ！ぼくが電車に乗っているんだよ！日本では皆、若い美人までよくに注目したのに。ドイツでは又ただの

人間になってしまった。つまらない。

でも、日本学科の後輩たちは（先輩・後輩のシステムはドイツにはなくても）日本経験のベテランの言葉に耳を傾ける。

夏休みに日本から彼女が訪れてくる。彼女の母とロンドンにいた彼女の妹もやってきて、ドイツの親戚と友達を集めて、家で婚約パーティを開く。結婚式はいずれ日本で行うことにした。

結婚式といえば市役所での儀式の後、フランス料理店でのパーティがいなとナイーブなぼくは思った。春休みに日本へ来ると、ここはいろいろ違うんだとだんだん分かってきた。ドイツの法律にあるように、まずは市役所へ行くが、しかしそこではドイツとは違つて儀式がない。ただ婚姻届を出すだけだ。出す前に役人に聞く。「ここにサインすれば、どんな法的帰結が生ずるんでしょうか。」役人は

びっくり。結婚の法的帰結？ドイツ人の常でしつこく聞いて、調べてもらう。日本には夫婦間の財産分配規定はないのかと驚いているうちに、返事が来た。「日本人と結婚してもビザはもらえない。」

古風な妻もまた驚いた。結婚しても夫の名前をもらえない。シャウマンの戸籍は日本にはないからだ。(この法律はこの間に変わった。) ぼくもこの理由にはびっくりしたが、夫婦別姓はすっきりして良いと思う。

結婚のことを彼女と文通して計画したときに、婚姻届の二人の証人を彼女の恩師ご夫婦に頼めばと提案した。「証人」がいつのまにか(これは異文化コミュニケーションというものだろうが)「仲人」ということになった。披露宴もまた面白い経験であった。でもこれについては日本人の読者に説明する必要はないと思う。

ぼくの紋付き袴姿の写真を親戚に見せたら、

「あなたのドイツ人のアイデンティティはどうなってる」と聞かれたこともある。しかしぼくはもとより衣服や国で自分のアイデンティティを決めようとは思わない。

日本で暮らす

ボン大学で博士号を取得して、日本の国立大学に就職をした。「外国人教師」として。同時に「教師」と「外国人」になったわけである。

ようやく本文が始まったと思う方もおられるかもしれないが、実はもう話すことはあまりない。

日本人の配偶者として、三年間ビザで五年以上日本に滞在した後、永住許可を申請した。警察は周りの人に聞いたり、ぼくをインタヴューしたりして、日本国に迷惑をかけるほどの変な人じゃないと判定し、すぐに永住許可をくれた。

外国人教師という身分はやはり不安だから、三年前、私立大学に転職した。仕事の条件も日本人と同じになった。大学の教師だから、そんなに悪い条件ではない。しばしば「日本とドイツ、どちらが暮らしやすいか」と聞かれるが、両方で同じ生活をしたことがないから、本当は返事ができない。人生の成り行きで日本に暮らすこととなったので、できるだけ楽しくやっている。

ぼくがドイツへ連れていった日本人の学生は、多くの行動を分析するのが好きらしい。多くの行動の中になんとかドイツ的一面を見つけると喜ぶ。しかしぼくにとってはそれはただぼくという人間の一面にすぎない。そういうわけでこの話も、「外国日本」での生活というよりは、「ぼく的生活」みたいなものになってしまった。



先日『朝日新聞』に「仲良しごっこ：私も」という題で、現代の若者たちの、ナマの声を集めた投書記事がありました。

それを読んでみると、人とながりをもち、解りあうことを極端にこわがり、自分が傷つくのがこわくて、ハリネズミのように自分の柔らかい部分に針を立ててしまう反面、友達がいないと欠陥人間に見られてしまう恐怖から、うわべだけのただ笑

っているだけのつき合いをしている若者たちの姿が、浮かんできました。

カラオケボックスはその象徴で、流行歌を歌い拍手するだけの解りあいなき盛り上がり、酔っているに過ぎない空間ださうです。親しい友ほど腹を割った話をしないということも聞きました。何ともさみしい気持ちになる話です。

「『間違っている』と指摘す

現代若者考①

「仲良しごっこ」の若者たち

るのは、よほどでないと相手の存在を否定することになる」という二十一歳の大学生の投書もありました。

相手を傷つけることも、自分が傷つくことも極端にこわがり、『仲良しごっこ』を演ずる背景には、西洋の個人主義思想と、日本のあるものに巻かれる主義の価値が混合しあう。複雑な現在の若者たちの苦悩が伝わってきます。

(潤)

吉野法衣店

各大本山御用達浄土宗袈裟法衣専門



〒160 東京都新宿区南元町17
TEL 03-3335-2168
振替 東京21176372

連
載

漱石の『こゝろ』を読む②

『こゝろ』の難解さ

北海道大学前文学部長

今西順吉



『こゝろ』に描かれた先生の生涯の物語はすでに周知のところであろう。先生は男女の三角関係のもつれから友人Kを裏切り、Kは自殺してしまう。先生はそのことに對する鋭い「罪」の意識に責められて、先生も最後に自殺してしまう。終始沈痛な文章で綴られるこの深刻な物語に読者が深い印象を植え付けられるのは確かである。この物語自体は極めて明白であるように思われる。しかしながら何故先生は自殺しなければならなかったのか、Kもまた何故自殺したのか、その理由を少し考えて見ると、それほど単純な問題ではないらしいと思われてくる。

「罪」の意味にしても、一般には常識的な水準で理解されているだけである。しかし氣をつけて読みなおしてみると、この小説の描こうとしている「罪」の問題が、最初に読んだときに感じられたほど直線的に単純明解ではなく、はるかに複雑で、むしろ作者の意図がどこにあるのか捕らえにくいことに驚かされ

る。不思議な魅力をたたえながら、しかも容易にはその本質を捕らえにくい。読む側の読みが深まれば深まるほど、それに応ずるよう作品自体も深みを増して、それまで気付かなかった新しい問題を発見するようになる。この作品があらゆる年代層の読者によって読まれているのはそのためであろう。

ここまでは小説に描かれている通りであるから誰でも解ることである。従つて問題はそこから先にあるはずである。しかしそこから先にあるはずの問題をともに考えようとした人は少ない。

もつとも、最近の文学批評の理論によれば、作品の真意などはいらないのであつて、読者が作品の深みを創り出して行くのだという。このような読者論にある程度の説得力がないわけではない。実際問題としても、明らかな誤読・誤解であるにもかかわらず、むしろ創造的な深い理解・解釈である例も少なくない。例えば道元などは実に大胆な解釈を打ち出し

ていることが多いけれども、それは軽率で無益な誤読ではなくて、深い理解の仕方を気付かせるところがあり、改めて驚嘆させられる。これなどは明らかに創造的・独創的な読み方であって、もとの文献を離れても道元の文章は独自の意義を主張することが出来る。漱石作品についてもそのような評論があるとするならば、もはや漱石を離れても、その評論自身が新たに深い意義を持つ独立の作品となりうるであろう。しかしながら漱石評論の類は漱石の周辺をめぐっているだけで、漱石以上に漱石作品を深く読んでいる例を、残念ながらわたしは知らない。従って現段階においては、漱石作品について文芸理論にある読者論を適用して、読者に文学創造の権利を認めうるだけの創造的な批評があるとは思えない。

漱石は明治四十一年十二月二十日付の小宮豊隆氏宛の手紙の中で次のように述べている。

文壇に出る一步は實際的ならざるべから

ず。今の愚なるものに分り易く、読み易く、相手になる様に見えて、侮りがたき思を起さしめざる可らず。

私的な手紙で、しかも門下生を励ますためのものであるから、かなり思い切った表現をしている。しかし漱石がこの手紙で述べていることは漱石のすべての作品にあてはまるであろう。そして特に『こゝろ』にはびつたりである。「愚なるものにも分り易く、読み易く、相手になる」ような、すーっと一気に読める文章でありながら、はて、待てよ、と立ち止まらせ、「侮りがたき思」を起こさせる。つまり、誰でも手にとって気楽に読めるものでありながら、実はその表面的な装いの下に、並々ならぬ深みを潜み込ませている。よい文章をもつてよい思想を表現する、というのが若い頃に正岡子規と交わした手紙の中で漱石が理想としたものであった。文章、というよりも文体というべきであろうが、明快な文体

で高い思想を表現することは漱石の生涯変わらない理念であつたが、このような明確な意図をもって創作に臨んでいたのであるから、われわれ読者はそのつもりで漱石作品に臨まなければならない。何故なら、作者は平明な表現の裏に、かなり複雑な構成を作品に与えて、容易には作者の全貌を現し尽くさない工夫を凝らしていることが充分考えられるからである。実際、漱石は読者にはちよつと理解出来ないのではないかと思われるような曖昧な、象徴的な手法を使って、平気で読者の前に作品を投げ出していると考えてよい作品例が少なくない。そのような手法は例えばシェイクスピアに学んだ点が少なくないであろうと思われる。例えば『永日小品』の中の「心」という短編は曖昧模糊として捕らえどころがないように見える。この小品がシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を下敷きにしてあることを以前論証したことがある。説明抜きでボンと投げ出す方法は詩においては日

常茶飯である。漱石の本質が詩人であることは、単に俳句や漢詩をよくしたことにとのみあつてなく、散文作品においてさえ重要な箇所ではこの方法を駆使して澄ましていることにも示されていると言ふべきであろう。

『こゝろ』が、一読してすぐに理解出来たと感じられるのも、それとはまた逆に、読めば読むほど難解に思われてくるのも、実は同じ問題、すなわち先生の自殺をめぐるものである。物語としてのこの小説の主軸が罪の自覚による先生の死であることには疑問の余地がない。作者は例によつて男女の三角関係を用いており、物語としては一応筋も通っているように見える。しかしながら小説の後の方で先生は淋しさを訴えるようになる。それとともに、Kが自殺したのも失恋のためなのではなくて、自分と同じように淋しさに迫られたからではないか、そしてKが淋しさのために自殺したように、先生自身もまた淋しさのために自殺することになるであろう、と考えるようになる。

る。そうすると、それまでの物語において恋の争いからKを自殺に追い込んでしまったことに対する先生の罪の意識と、後になって語られる淋しさや自殺とはどのような関係にあるのかが問題になる。また、この問題は先生とKをめぐる私的・個人的な問題のはずであるのに、明治天皇と乃木大将の殉死を契機に、先生は「明治の精神」に殉じて死ぬのだという。明治天皇の崩御と乃木大将の殉死は歴史的事実であるけれども、乃木大将の殉死は明治天皇に対する特別な君臣関係という公的関係を前提にしている。これに対して先生は明治天皇との間にそのような君臣関係を持つてはいない。だから天皇に殉死するとは言わずに、「明治の精神に殉死する」と言うのであるけれども、何が「明治の精神」であるのか、何故先生はその「明治の精神」に殉じて死なねばならないのかは、この作品では説明されていないように見える。一般にはむしろ取って付けたかのように、落ち着きの悪いもの、

従って読者の自由な判断が入り込む余地の多いものとして理解されている。

このように、『こゝろ』の物語の軸は先生の罪の意識であるとしても、実際には罪の意識の上に、淋しさ・明治の精神という、非常に重要な概念が次々に畳み込まれるように重ねられ、さらに先生の殉死で終わっている。

そしてこれらの概念が相互にどのように関連しているのかが非常に解りにくい。『こゝろ』は漱石作品の中では最もポピュラーな作品でありながら、これまでの研究でもこの問題は解明されていない。従ってそもそも『こゝろ』という作品がどういう作品であるのか、また漱石はこの小説において「心」を捕らえたと呼んでいるにもかかわらず、作者自身が心をどう捕らえているのか、問題の焦点が一向に定まらず、全体像が曖昧なままである、というのが実状であろう。

もともと小説の中で、先生は自分が倫理的な人間であることを明言しており、以上の問

題も作者が倫理上の問題、思想上の問題として考えていることは、疑問の余地がないほど明確である。そこでこの作品を漱石の「則天去私」の思想の線上に位置づけようとする試みが早くからなされている。言うまでもなくその代表者は小宮豊隆氏である。作品解釈の方向としては当然そうであるべきものと言わなければならないけれども、小宮氏の解釈は作者が『こゝろ』という小説に託した複雑で微妙な意味をテキストに即して丁寧に読み取る努力を充分に払っているとは言えない。むしろ小宮氏は漱石の思想を極めて平板な通俗的解釈のもとに理解し、そのような解釈で作品を割り切り、それを作品に押し付けている。従って『こゝろ』という作品をテキストに即して正確に読むというよりは、漱石から聞いて小宮氏が理解したところの「則天去私」論に相応すると考えられた部分だけを『こゝろ』から抽出しようとする、かなり乱暴な読み方をしていると言わなければならない。従

って小宮氏の作品理解に大きな問題や破綻のあることは、テキストを慎重に読んだならば容易に気付かれる。だから戦後に始まった現代の漱石研究が小宮氏の描いた漱石像を「漱石神話」として否定し去るところから出発したのは、一面では、充分な理由があった。

しかしながら、こうして始まった新しい漱石研究は小宮氏流の漱石解釈を退けること自体に大きな意味を見出そうとするかに見受けられる。その研究の歴史はすでに決して短くはないにもかかわらず、漱石理解にどれだけ貢献したか、判断に苦しむ点が少なくない。もとよりこの間にテキストの精密な研究がなされ、作品の様々な箇所について精細な問題提起が重ねられて来ている。そしてその方法が今日主流であるらしい。例えば鶴田欣也氏は「テキストの裂け目」という論文の中で次のように述べている。

吉田精一は角川文庫の解説で『こゝろ』

は「精密な建築設計図のようなものか」最初から組み立てられていたのではないか、また「これほど論理的な構成をもっているものは、他にないといつてよい」とまでいっている。しかし学者が後年『こゝろ』のテキストを虫めがねで見るようになると登場人物の性格、構成上の食い違いのようなものが発見されてきている。

精密な作品理解のために細部が無視されるべきではないのは当然である。細部に関する実証的な研究が推進され、それを集大成することによって作品の全体像が完成するのであるならば、この方法は適切であろう。それならば精密な細部の研究によって『こゝろ』という作品が以前よりも一層よく理解出来るようになったと言えは、実情は甚だ疑わしい。むしろ『こゝろ』を理解出来ないために、理解不能の原因を作品自体の責任に帰そうとして、細部をあげつらい、作品が裂け目の多い

不完全なものであることを実証しようとしているかに思われる。実際、漱石作品は不完全であるから書き直すのだと明言している小説家もあるくらいである。わたしはそう考える必要はまったくないと思っている。第一、そうであるならば、何も漱石にかかずらう必要はないはずである。漱石のどこが優れているのか、漱石から何を学ぼうとするのかを示さないで、ただ欠点をほじくり出してあげつらうことが通用するのは、単に漱石人氣にあまりやかり、もたれかかっているだけではないだろうか。そもそも言語表現が常に完全なものであるということはありえない。だからそこには「裂け目」あるいは隙間がありうるであろう。一般にはそれを恣意的な解釈によって補おうとしている。従って問題のある「細部」に関する「解釈」は山積するけれども、作品としての全体像は拡散してしまつて収斂することがない。しかしながら、まとまった意味のある言語表現において、部分が全体から遊

離して存在すると考えることはまず不可能である。細部は全体によって制限されながら、全体を支える。作品の細部と全体は相互に響き合っている。従って全体像の発見・構築を無視して、細部の実証的解釈が成り立つという前提は成立しえない。作者は作品全体を構想して、構想に即して叙述を進めているのであるから、われわれもまた作品全体に対する理解を確立していなければならない。

こう言えば、人は笑うであろう。作品全体の理解が出来ないために細部を問題にしているのに、どうして全体の理解が可能なのか、と。しかし事実としてそうあるべきことは疑いようがない。それをしないで、取るに足りない細部をことごとしく取り上げて得意がるのは精神の卑小さを示すものでしかない。

『こゝろ』とはこういう作品であると、その全体像について小宮氏ほどの確信をもって論じている評論家が今日では一人もいないと言っても過言ではあるまい。小宮理論に問題

があるのは事実であるけれども、現代の研究者はそれの拒否という点では認識を共通にしなから、しかしそれに代わるべき新たな作品論がいまだに提示されていない。むしろ、『こゝろ』に対して様々な疑問を提起するのが評論家の役割であるかのごとき観すら呈している。

『こゝろ』はますます謎を深めているように見える。疑いが哲学の出発点であるとギリシアの哲学者は言ったけれども、ただ疑っているだけであるならば、それは研究でも何でもない。ただ出発点の周囲をいつまでも回っているだけのことである。漱石研究は盛んでありながら、その現状はこのように不可解な状況にある。しかも専門家の中でも大家として自他ともに認めている人々がそれを助長しているのは、何とも嘆かわしい限りである。

おかげさまで

410
周年

伝統が支える

信用と技術



松井建設株式会社

本社：東京都中央区新川一丁目二番二号（〇三）三五五三、二五一
 東京支店：東京都中央区新川一丁目二番二号（〇三）三五五三、二七一
 支店：大阪・名古屋・北陸・北海道・東北・九州・横浜

若者たちの間では、最近「やさしさ」の言葉の意味が、私たち世代とは違うらしいのです。私たちは、「やさしさ」といえば、すぐに「慈悲」の心を思い浮かべ、その実践こそが「やさしさ」だと何のためらいもなく思ってきました。しかし最近では、「やさしさ」とは、その人の価値観を重視して、その人のノリを妨げないこと、なのだそうです。

つまりいい音楽があるからといって、その人に薦め聴かせるわけではなく、むしろその人の好みを重視して、その人の時間を奪うことをしないよう心がけることが「やさしさ」なのだと思います。

しかしどうも私にはよく解りません。その人の好みを重視する、価値観を大事にするというのはきれいごとで、自分の考えを言い、相手の考えをよく聴く

現代若者考②

「やさしさ」の意味が違ってきた

といった、討論の上でなされることではないようです。お互い同志、理解しあうことが欠落しているように思えるのです。

現代の若者たちを「仲良しごっこ」の世代といいます。お互いが深く干渉しあわず、会っているときは、ただ笑っていらればいいということを、若者の投書から読み愕然としました。「やさしさ」の意味も変わって当然かもしれません。（潤）



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウォッチング、紀行文その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。

どしどし編集部にお寄せ下さい。

編集部取材ノートから

投込み寺の 荷風忌



箕輪^{みのわ}の浄閑寺を出て大関横町を左折、大門^{おおもん}からまっつぐ吉原を抜け、浅草へ。

随分な距離^{はな}だが、早足。まるつきりのインサイダー^{インサイダー}面^{つら}して、蜘蛛の子のように集散する呼び込みの兄ちゃんには会釈とも無視ともつかぬ目線を無意味に投げ遣り、しかも、その盛衰には冷静な観察怠りなく通り過ぎるのが歓楽街、悪場所を抜けるコツ。

そういえば晩春。

夕暮れると土曜日の六区は、競馬に幾許かの小遣いをはたいた初老の男たちの群れが、そこここに無音に澱み、まるで町の滲みのよう^うだ。

(街が老いているのだ……)

気づくと否応なく気分が伝染してくる。暗く重く増幅してくる。

ロック座の煽情的というには上品、センスがいいというには安っぽい看板の前で、頭をグルグル回し、唐突に、空気を振り払うように一句。



荷風忌や踊り子さんに触れてみる

我ながら、あまりに脳天気な馬鹿馬鹿しさに思わずくすつと嗤ってしまふ。

これも俳句の効用というやつか。要するに意味のない独り言が気分を救うこともあるってこと。

思えば、永井荷風が愛し、日参した浅草の風情はもうとっくにないのだ。

けれど文豪も既に昔日の幻影を追った。

幻影のまた幻影を追体験するのも一興なのではないか。

平成八年、四月三十日、土曜日。文豪永井荷風を偲ぶ、荷風忌が三輪の浄閑寺で行われた。今年で二七回目という。

昭和三四年のこの日、かの文豪は市川八幡で孤独の死を迎えた。本来だと去年が三七回

忌。葬式するな、墓要らぬと書いた荷風だが浄閑寺とは浅からぬ因縁がある。

浄閑寺、通称、投込み寺。

開基、明暦元年（一六五五）。開山上人は天蓮社晴譽順波和尚。正しくは栄法山清光院浄閑寺と号す。

開基の二年後、世に「振袖火事」といわれる開府以来の大火が江戸を襲い、市中の大半が廃墟と化した。幕府はこれを機として、江戸復興、新都市整備を企図したが、その一環に日本橋葭町にあった遊廓の浅草田圃への所替えの計画があった。この新しい遊女町をもとの葭原に対して「新吉原」と称したのである。新吉原は目論見通り、あるいは予想を大きく越えて急速発展し、江戸名所のひとつになったが、それは一方で薄倖の遊女たちを膨大に生み出すことにもなった。そこに身を売って働く遊女たちが病に侵され誰にも看取られずに死んでいく。その痛ましい遺体は、日本堤の上をたどって堤の北端、日光街道に近



い箕輪の浄閑寺へ無縁仏として葬られたのである。

かくて新吉原創業以来吉原廃業までの三百年間、浄閑寺に投込まれるように葬られた遊女は実に二万五千人に及ぶ。

浅草を歩き、吉原に材を採った荷風が、この寺に惹かれ、幾たびも訪れ、あげくは自分の葬式の筋書を相談に来て、浄閑寺に墓を建立すること、その墓の大きさの指定までしていたこと、むべなるかな、と肯定できる。

おや、さっき書いた無用の言説と矛盾するではないかとの指摘のむき当然あるだろうがどちらも真実。かの文豪の、らしき気まぐれの真意、いまとなつては解明できない。また解明する必要もない。

荷風の死後、作家、評論家、学者、荷風を敬愛する有志寄り集い、浄閑寺に荷風碑を建立し、寂静の思いに導く道標としたこと必然であり、また荷風を追慕し愛好する人々が、文豪を偲ぶ一日を過ごすことのできる荷風忌

を修すること、これまた至妙である。

例年、法要のあと講演会があり、いずれ劣らぬ研究者、愛好者の荷風論を聴くことができて楽しいが、今年も和光大学教授、塩崎文雄氏、近代文学館理事長、中村真一郎氏（お元気だった！）の講演があり、いずれも興味深い、荷風の一面を語られ、質疑応答とも内容の濃い時間を過ごすことができた。

荷風は日本文学史上、極めて特異の人であったが、この投込み寺の現御住職戸松学童師もまた飄逸、無縫の人であり、此処に特筆せずにはいられない。荷風忌の存続自体もこの方抜きでは考えられず、近代の垂直な知性といわば中世的な水平、風雅風狂との交錯点に佇って、甚だ乱暴に言えば、念仏の実践によってこれを止揚するといった磊落（この書き方では、私はこっぴどく怒られるかもしれない）を持つ。



筆者などは餓鬼の頃から薫陶を享け、その真摯なる遊蕩、変幻自在の対話、酒品、何よりも含蓄が顔に描いてあるとでもいふべき稚氣溢れる尊顔を深く敬愛するものである。

□□□手は出っ張った脳である

□には五文字、何かびったりした季題を入れてほしい。たとえば、秋なら「おい茸」と威張るのもいい。初夏なら「空梅雨や」でもいい。但し、中七下五の「手は出っ張った脳である」これは学童師の創作、最近、お気に入りのフレーズである。

八十歳を越えられるいま、浄閑寺は大普請の真つ最中（荷風忌はその新しく建築中の多目的ホールで行われた）であり、その脈々たるエネルギーの淵源は測り知れない。

というわけで、何を勘違いしたか、にわか

「ふらんす文学」の徒となった私は、浄閑寺の門を出た。

○○忌とか××忌など催すべきではない。

静かに自宅に帰り、その著作をひもどいて一人、作家の生涯を忍び鎮魂の時間を過ごすべきた、と偏屈きわまることを言っていた荷風好きの友人に、私の今日の時間をどう伝えるべきか、そんな厄介な娛しみのことを考えるながらも、足は、もう紅い灯、青い灯のスイッチに手の掛かった夕暮れの浅草、純粹に学問研究の対象としてのみ、敢然と立ち向かってきた巷とかいう場所に向かっていたのであった。

（文責 佐山哲郎）

春

誌上俳壇

廻廊は早や磨かれて春の寺

点鬼簿に諡号若し寒き春

つなく手のやわやわ小さし花祭

灌仏会そそぐ袂に鍵の鳴る

佐藤雅子（山形）

宇高一慧（埼玉）

水音のとだえぬ厨花の冷え

轉や伽藍につづく保育園

春暖炉薪弾けをり山の宿

山の氣を存分に吸ひ春惜しむ

千枚の植田の光る日本海

田植機の夢のまた夢千枚田

千分の一の田にをり田を植うる

内堀綾子（東京）

吉田ゆきゑ（東京）

児玉仁良（埼玉）

事務局便り

●お詫びと訂正

4月号巻頭掲載の牧田諦亮先生の文章中、鄭振鐸氏とあるのは鄭振鐸氏の誤り、また最終行、法然上人誕生とあるのは法然上人往生の誤りでした。ここに謹しんでお詫びするとともに訂正させていただきます。

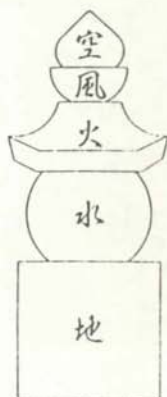
●新規会員紹介（敬称略、順不同）

〈一般会員〉

長崎 平戸組 法善寺

〈購読会員〉

富山 水波組 大仏寺
東京 城北組 仮宿院
広島 豊田郡 花田ハツノ
東京 調布市 海野信幸
東京 大田区 武蔵谷コト



日本の代表的卒塔婆メーカー

株式会社 **協和木工所**

〒190-01 東京都西多摩郡日の出町平井1316

TEL:0425(97)0732 FAX:0425(97)1816

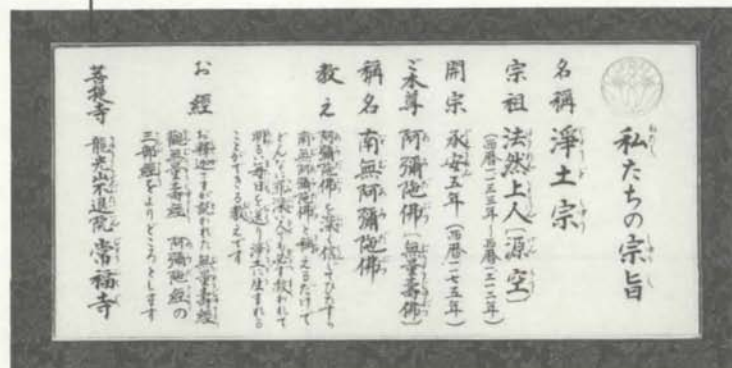
創業70年間の実績と
最高の品質

お寺から檀信徒へ

宗旨布教額

家の宗旨がよくわかる！

菩提寺の名が入ります！



定価：大（32.0×18.3cm）721円／小（27.3×14.2cm）421円

注文・問合せは
法然上人鑽仰会

〒105 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
電話：03-3578-6947 / FAX：03-3578-7036

編集



後記

知らぬ間に濡れる我が身か小ぬか雨 岱潤

今月は雨の季節である。梅雨に入ればそれこそ毎日傘を必要とすることだろう。

雨と聞くとどうしてもこんな句が浮かんだ。もちろん小ぬか雨は、春先か秋の終わりの時雨を指し、この時期の雨のことではない。しかしこんな句が詠みたくなるのは、学生時代に読んだ道元禪師の『正法眼蔵』に、「霧雨の中を歩いていると知らぬ間に濡れてしまうように、良き教え、良き友と交わっていると知らぬ間に教えが身につく、正しい生活ができるようになる。このことを薰習という」という話を思い出すからである。

雨に濡れることをそんなふうを受け止められたら、少しはイライラも納まるのではないだろうか。ただしこの時期の雨は少し様子が違う、傘をささなければずぶぬれになってしまう雨であるし、時には南国のスクールのような、やむのを待つしかないときもある。

雨を悲しみに喩えることがある。「小ぬか雨程度の悲しみなら濡れながら詩でも書いていよう。傘を必要とする中ぐらいいの悲しみときは、人の情けを頼りにすがつて生きよう、でも土砂ぶりの悲しみのときはじっと過ぎ去るまで待つていよう。」

こんなふう言われている。そして何より私たちは、その時に傘やレインコートの役目をするお念仏があることを嬉しく思う。雨の中を歩くとき、また雨宿りをするとき、お念仏を称えることがどれだけの力になることか、今月はそのことを伝える月でもある。

(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

齋藤晃道

村田洋一

太田正孝

石上俊教

佐山哲郎

編集協力

オフィス頼朝 佐山哲郎

編集顧問

大室了皓

浄土

六十二巻六月号 頒価六百円
年間費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成八年五月二十五日
発行 平成八年六月一日

編集人 宮林昭彦

発行人 牧田諦亮

印刷所 株式会社 平文社

写真植字 株式会社 シータイイー

〒一〇五 東京都港区六本木四一七 四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三三二五七八 六九四七

FAX 〇三三二五七八 七〇三六



使えるよなあ、こいつ。



こんどのパルサーは、 たのしい新実用主義。

- いろんな機能性に、ヨロコビがあるのが新しいのだ。それが
こんどのパルサーのための新しい新実用主義。しっかり楽し
み、しっかり仕事する。しっかり生活する。Mr.しっかりのこれから。
気持ちよくサポートします。

これ安心

● 運転席SRSエアバッグ
システム全車標準装備。



走る走る

- 燃費: マルチリンカムシステムエンジン(リヤ)
- うれしい低燃費: 1500X15連フロアシート
18.3km/l、1500REZZOプライマリー(15連
フロアシート)19.8km/l、10-15モード燃費
(運転者1人乗車時)

らくちん

- 上座席のある、しなやかな乗りこころ。
- ゆったり室内スペース。

ツイてる

- 新製エアコン。
- トランク、ポケット等、収納性じょうず。

パルサー4ドアセダン 1500CJ-15連フロアシート) **131.3万円**

パルサー4ドアセダン 1500X15連フロアシート) **148.4万円**

上記価格にはメーカーオプション(1人乗車時のシートベルト着用)13.1万円が加算されています。

上記価格はいずれも全国メーカー希望小売価格(国産・北海道・沖縄)

Mr. しっかり 新パルサー誕生

[Mr.しっかり] 日常ファン活用。①新パルサーの別名。②新パルサーに載る人の愛称。
③一状態……新パルサーでたのしい人生を送っている様子。

● PHOTO: パルサー4ドアセダン1500X1。ボディカラーはブルーイッシュシルバーII(※K11)。スポーツパッケージは
メーカーオプション。●希望小売価格はすべて税別。●標準工具付。●希望小売価格は1.7万円弱となります。●保険料、
税金(消費税込含む)登録等に付く諸費用は別途申し受けます。●希望小売価格は参考価格です。価格は販売会社が
独自に決めていますのでそれぞれの販売会社にお問い合わせください。●日産自動車お客様相談室 全国共通
フリーダイヤル 0120-315-232 ●お求めは、お近くのスカイライン、ブルーバード、日産サリール各販売会社へ。



みんな、自分の星を追いかけている。

駆けぬける 喉ごし。

息もつかせぬ爽快感。おいしいビールは、
喉をまっすぐに走ります。胸に一本の滝をつくります。
やすらぎと勇気をあたえてくれるもの。あなたの金星、黒ラベル。

サッポロ〈生〉黒ラベル



ビールは、20歳になってから。あきかんはリサイクルへ



ご協力ください。リサイクルマークによる売上の向上は、
ご協力により実現されています。

サッポロビール株式会社